

情報班の光誘起超高速磁化反転の研究はオランダ Radboud 大学, イギリス York 大学等との国際共同研究である。医療班の癌ゲノムにおける特異的な遺伝子増幅領域を利用した診断および治療の研究は協和発酵キリン, 光線力学療法とコヒーレント X 線照射技術の融合による新たな治療法の展開は, 宇都宮大学, Roswell Park Cancer Institute との共同研究である。ナノ基盤系班のプラズマガン製膜法について, カナダ Plasmionique 社との間で商業化の検討を開始した。また, DNA 認識化合物についての研究で, イギリス Royal Society から, International Travel Grants を得た。

成果発信 2009 年以降

以下に研究成果の外部への発信状況をまとめた。

論文	159
特許出願等	9
招待講演	76
学会発表	320
その他	57
受賞	4

原著論文では, 遺伝子構造図の作成と遺伝子の修飾状態について正常細胞と癌細胞で網羅的に比べる取り組みが *Nature* に掲載されたことが特筆される。また, 世界最高速磁気記録の成果は *Phys. Rev. Lett.* に掲載され, その論文が, American Physical Society 発行の *Physics – spotlighting exceptional research* に注目論文として紹介された。

メディアでは, N.プロジェクト全般に関して, 日刊工業新聞および東洋経済に取り上げられた。また, 人工光合成をめざした研究が, 注目研究を紹介する雑誌 *someone* で取り上げられた。

MORIS (Magnetics and Optics Research International Symposium) 2009, 放電学会年次大会 2009, 電子情報通信学会東京支部学生会, 電子情報通信学会電磁界理論研究会において, 発表賞あるいはポスター賞を受賞した。